

開講の  
ことばパスを確実につなぎ、人々の  
心を動かす

(一社)日本医薬品卸売業連合会会長

## 渡辺秀一



皆様には、日ごろより卸連合会の運営に多大なご支援をいただき、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。ありがとうございます。

はじめに、このたびの台風や豪雨により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げますとともに1日も早い復興をお祈り申し上げます。

医薬品卸においては、幸いにも人的な被害はありませんでした。しかし、河川の氾濫などにより、建屋、車両、従業員の自宅に被害が出ました。そのような困難な中であっても、卸各社は必要な医薬品の安定供給を継続し、被災された医療機関や薬局などのサポートにも尽力されました。会員各社の皆様に感謝申し上げます。

大規模な自然災害が、残念ながらたびたび起こる時代になりました。いつ、どこで、何が起きてもおかしくないという前提で物事を考え、必要な備えを行うために投資をするなど、社会インフラとしての卸機能の維持に今後も努めてまいります。

日本中を明るくした話題の1つに、ラグビーワールドカップでの日本チームの活躍がありました。選手たちは何年も前から明確な目標を掲げ、厳しい練習に耐えてきたとのこと。その強い信念と努力の積み重ねが、ベスト8という歴史的な成果につながったのだと思います。また、選手たちが必死にボールをつなぐ熱意あふれたプレーは、多くの人々の心を動かし、新たなラグビーファンを生み出しました。私もその1人です。

私は5月に、卸連合会の会長に選任された際の挨拶で「国民にとってわかりやすく、より信頼される存在を目指す」と申し上げました。国民の健康を支えるために、卸として何をするのかという明確な目標を持って、真摯に行動していくつもりです。このことを継続することが大事なのだと、改めて感じた次第です。

私たち卸もラグビー同様、パスを確実につなぐ仕事であり、人々の心を動かすことのできる素晴らしい仕事だと思っています。だからこそ、業界特有の言葉ではなく、わかりやすい言葉で卸の必要性や機能を世の中に伝えていくことで、1人でも多くの理解者を増やしたいと考えています。

さて、医薬品卸売業の世界大会であるIFPW総会が来年10月に東京で開催されます。高齢化が進む日本での医療のあり方や卸の取り組みに注目が集まるものと考えています。28年ぶりの日本での開催であり、鈴木前会長が世界卸連の会長を務めておられますので、ぜひ成功させたいと思っています。皆様にはご協力をお願いすることになりますが、何卒よろしくお願いたします。

また、このたび卸連合会では、国際委員会が「医療用医薬品の流通の安全性と品質確保に関する国際比較」を作成しました。これは欧米と日本の卸を比較し、日本の卸はどこが優れていて、どこが遅れているのかを熱心に議論して作成したものです。会員卸だけでなく外資を含めた製薬企業の皆様にもお読みいただき、日本の卸や外国の卸の良さと問題点を理解し、それを日々の改善に生かしていただければと思っています。

本日は、衆議院議員の今枝先生、厚生労働省医政局経済課の林課長、日本製薬工業協会の中山会長、日本薬剤師会の山本会長にご講演いただきます。本日のセミナーが医薬品業界関係者にとりまして、実りある時間となりますことを心から祈念して、開講のことばとさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。